

国内電信級陸上特殊無線技士試験問題

(注) 解答は、答えとして正しいと判断したものを一つだけ選び、答案用紙の答欄に正しく記入(マーク)すること。

法 規 12問 30分

法 規 (1)

- 〔1〕 免許人が無線設備の設置場所を変更しようとするとき
の手続は、次のどれか。
1. あらかじめ許可を受ける。
 2. 直ちにその旨を報告する。
 3. あらかじめ指示を受ける。
 4. 直ちにその旨を届け出る。
- 〔2〕 無線従事者がその免許証の訂正を受けなければならないのは、どの場合か、正しいものを次のうちから選べ。
1. 住所に変更を生じたとき。
 2. 本籍地に変更を生じたとき。
 3. 他の無線従事者の資格を取得したとき。
 4. 氏名に変更を生じたとき。
- 〔3〕 免許人(包括免許人を除く。)が正当な理由がないのに無線局の運用を引き続き何箇月以上休止したときにその免許を取り消されることがあるか、正しいものを次のうちから選べ。
1. 1箇月
 2. 3箇月
 3. 6箇月
 4. 1年
- 〔4〕 無線従事者がその免許を取り消されることがある場合は、次のどれか。
1. 免許証を失ったとき。
 2. 日本の国籍を有しない者となったとき。
 3. 電波法に基づく処分に違反したとき。
 4. 引き続き6箇月以上無線設備の操作を行わなかったとき。
- 〔5〕 無線局の免許がその効力を失ったとき、免許人であった者がその免許状についてとらなければならない措置は、次のどれか。
1. 遅滞なく廃棄しなければならない。
 2. 1箇月以内に返納しなければならない。
 3. 無線検査簿とともに3箇月以内に返納しなければならない。
 4. 無線検査簿とともに2年間保管しなければならない。
- 〔6〕 固定局の免許状は、掲示を困難とする場合を除き、次のどの箇所に掲げておかなければならないか。
1. 主たる送信装置のある場所の見やすい箇所
 2. 受信装置のある場所の見やすい箇所
 3. 通信室内の見やすい箇所
 4. 無線局のある事務所の見やすい箇所

国内電信級陸上特殊無線技士試験問題

法 規 (2)

〔7〕 次の記述は、秘密の保護に関する電波法の規定である。□内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、□に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。」

1. すべての相手方
2. すべての無線局
3. 不特定の相手方
4. 特定の相手方

〔8〕 無線電信通信において、相手局に対し通報の反復を求めようとするときは、次のどれによることになっているか。

1. 反復する箇所を繰り返し送信する。
2. 反復する箇所の次に「RPT」を送信する。
3. 「RPT」を送信する。
4. 「RPT」の次に反復する箇所を示す。

〔9〕 非常の場合の無線通信において、無線電信により連絡を設定するための呼出しは、次のどれによって行うことになっているか。

1. 呼出事項の次に「OSO」3回を送信する。
2. 呼出事項の次に「OSO」2回を送信する。
3. 呼出事項に「OSO」3回を前置する。
4. 呼出事項に「OSO」1回を前置する。

〔10〕 無線電信通信において、「ラタ」を使用する場合は、次のどれか。

1. 通報のないことを通知しようとするとき。
2. 周波数の変更を完了したとき。
3. 通報の送信が終わるとき。
4. 通信が終了したとき。

〔11〕 無線通信の原則として無線局運用規則に規定されているのは、次のどれか。

1. 無線通信は、有線通信を利用することができないときに限り行うものとする。
2. 無線通信は、正確に行うものとし、通信上の誤りを知ったときは、直ちに訂正しなければならない。
3. 無線通信を行う場合においては、略符号以外の用語を使用してはならない。
4. 無線通信は、長時間継続して行ってはならない。

〔12〕 無線局は、自局の呼出しが他の既に行われている通信に混信を与える旨の通知を受けたときは、次のどれによらなければならないか。

1. 直ちにその呼出しを中止する。
2. 中止の要求があるまで呼出しを反復する。
3. 空中線電力をなるべく小さくして注意しながら呼出しを行う。
4. 混信の度合いが強いときに限り、直ちにその呼出しを中止する。